

続擬律必携 八

1
49

CZ
711
02

禁電子式複写

11
49

一
共
十
一
本

東 京 圖 書 館				
一	四	三	一	
冊	九	架	函	類
号				

横山成教
渡邊義雄
佐久間希清

續擬律必携

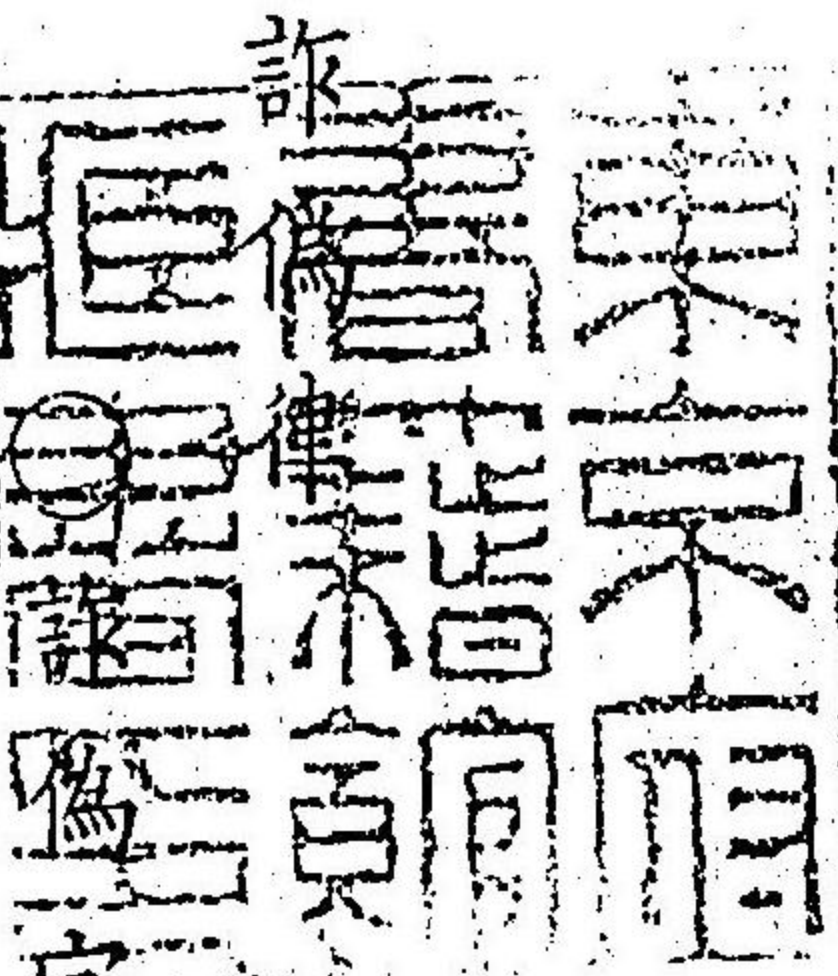
八

30.10. 7

c2
911
02



UNIVERSITY OF TOKYO



續擬律必携卷八

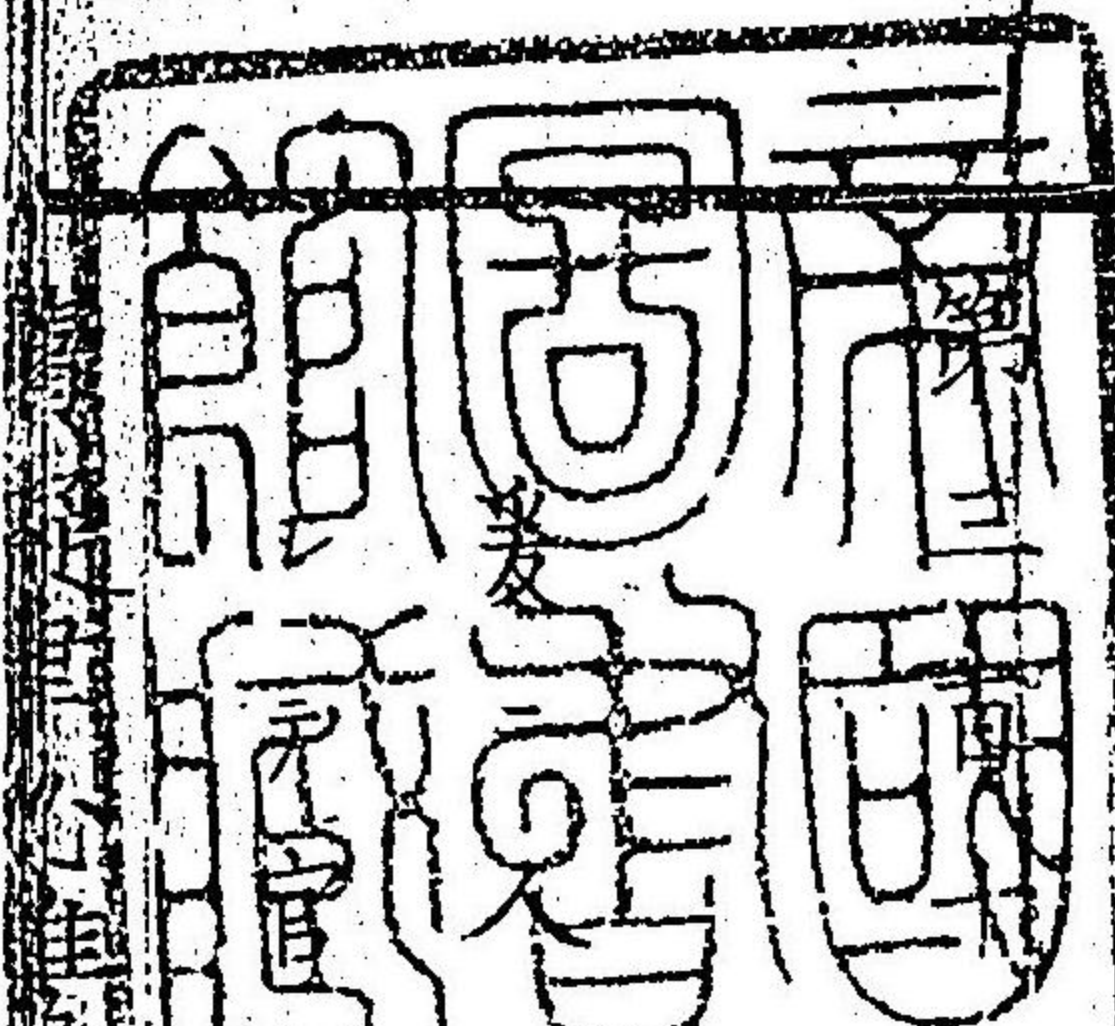
明治十年國書局發行

横山成教
渡邊義雄同輯
佐久間希清

五條 明治九年一月十八日指令同八

年四月三十日秋田縣伺

リ所有ノ地券書替ヲ同居ノ子弟ヲ
ニ請ハシムルニ其子弟廳下ニ滞在



卷八

中酒色ニ耽淫シ許多ノ負債ヲ生シ窮迫ノ餘
リ一時金策ノ為メ父兄ノ證書ヲ偽作シ其名
下ニ自己ノ印章ヲ捺押シ杜撰ニ引請人ヲ記
載シ其名下ニ世俗三文判ト唱フル字形不明
ノ印ヲ偽押シ仍ホ戸長ノ保證ヲ偽作シ其ノ
詐術ヲ固フセント圖リ嘗テ該犯願書ノ次紙
ニ戸長ノ奥書押印アルヲ証書ニ副綴シ父兄
ヨリ寄託セラレタル地券ヲ抵當トナシ以テ
他人ヨリ金數十圓ヲ借取シ〔債主ハ其情ヲ知
ラス〕盡ク之ヲ濫費虚用ス其ノ形狀詐偽取財

ニ類似スト雖モ其ノ實一時金策ノ切迫ナル
ニ發リ一ノ禍心ナク他日金圓償還ヲ期スル
者准盜ヲ以テ待ツ可カラズ故ニ戸長ノ保證
ヲ偽作セシヲ責メ詐偽律詐爲官文書條餘ノ
文書ヲ詐為スル者ヲ以テ論シ懲役一百日其
ノ抵當ニ差入タル地券ハ債主ヨリ追徴シテ
事主ニ給シ其ノ貸借上ハ民法裁判ニ付シ可
然哉

指令

伺ノ通

○例第二百四十六條

第三百十六條 明治九年五月二日指令同年三

月三十一日北條縣伺

第一 各居二等以下ノ親私ノ文書ヲ相詐為
スル者ト雖モ不應為輕重ニ問ヒ減等スル限
ニアラサル欵將々親屬相盜律各居五等ノ親
財物ノ相盜ム者ハ凡人ニ一等ヲ減シ四等三
等二等ノ親ハ各一等ヲ遞減ストアル權衡ニ
依リ各遞減シテ不應為輕ヨリ輕ク若クハ等
シキハ不應為輕キニ止メ如何可有之哉

第二 各居ノ父子私ノ文書ヲ相詐為スルハ
如何相心得可然哉

指令

第一二 改定律例第二百四十六條ノ通心得
可シ

○例第二百四十七條

第三百十七條 明治八年四月十二日指令同七

年十一月二十九日京都裁判所

伺

東京府華族三條西公兄弟京都教王護國寺任

職代寶菩提院住職三條西乘禪儀別紙罪案_之畧
 ノ通ニ付改定律例第二十六條ニ照シ相當ノ
 處置可及答ノ處同人義ハ肩書ノ通既ニ本年
 第八號御布告ニ依リ元籍へ編入致居候間右
 律例御改正ハ無之候得共若クハ元籍ヲ以テ
 御取扱モ之アル可ク裁ト右華族籍ノ者犯罪
 云々當十月付ヲ以テ相伺候處勅奏官位犯罪
 律ニ依テ處分スト御指揮之アリ候ニ付則右
 例ニ倣ヒ御處置相伺申候尤モ右乘禪如キ僧
 侶ノ犯罪各原籍ヲ以テ論セラレ候儀ニ候へハ

最前推問ノ儀モ可經奏請手順ニ有之候得共
 本年第八號御布告僧侶其族籍ヲ定ルモ一寺
 住職ノ外身分取扱方ノ明文之ナク且ツ律例
 第二十六條モ御改正之ナク候間乘禪犯罪モ
 仍ホ同條ニ照シ右伺以前推問ニ及ヒ既ニ口
 書結案ニ至リ證印モ相濟居候間其儘致進達
 候條可然御處分被下度候也

指令

本寺ノ掛所ヲ竊カニ末寺ト詐稱シ之レニ住
 職ヲ置カンテヲ府廳ニ申請ノ改定律例第二

百四十七條上ニ告ルニ詐テ實ヲ以テセサルノ情輕キニ擬シ閏刑ニ換ヘ

禁獄八十日

三條西

乘禪

○偽造官印

第三百十八條

明治八年四月九日指令同年三

月二十三日東京裁判所伺

詐偽律偽造官印條凡官ノ印ヲ偽造スル者云々餘ノ印ハ徒一年財ヲ得ル者ハ各盜罪ヲ以テ重キニ從テ論スト有之處令茲ニ人アリ一時調金ニ指支ヘ該區戸長ノ役場印及ヒ戸長

ノ私印ヲ偽造シ戸長預リ米切手若干ヲ詐為シ右切手ヲ人ニ典シ期ヲ約シテ金圓ヲ借り大半返償ノ後事發覺スル者アリ右等ハ始ヨリ返償ノ念アルヲ以テ偽造詐為ニ罪ノ内一ノ重キ餘ノ印ヲ偽造スル罪ヲ科スルニ止メ其典借スル所ノ金ハ民法裁判ニ付シ可然乎將々律ニ照シ得ル所ノ金ヲ返償セシ金賊ニ計ヘ盜罪ヲ以テ論科不可キ乎

指令

餘ノ印ヲ偽造スル一ノ重罪ニ科シ典借スル

所ノ金額ハ民法裁判ニ付ス可シ

○改正偽造寶貨

第三百十九條 明治九年一月二十二日指令同

八年五月和歌山縣伺

第一 錢鋪ニ惡金ヲ漬シ直ト唱ヘ買取ス其惡金原ト贋貨ナリ其初ヨリ贋ナルヲ知テ買取シ之ヲ正金價直ヲ以テ行使ス其罪不應為重ニ問ヒ可然哉

第二 改定律例第二百五十二條凡偽造タルヲ知テ買取スルトハ誰某ノ寶貨ヲ偽造セ

ルヲ確知シテ買者ヲ指ス乎又ハ偽造スルハ誰手製ニ出ルヲ知ラスト雖モ唯タ贋造タルヲ知テ買取スル者ヲ謂フ乎

指令

第一 偽造寶貨律情ヲ知テ買使スル者ヲ以テ論スヘシ

第二 第二百五十二條ノ買取者ハ偽造者ノ誰タルヲ知ラスト雖モ贋造ノ物タルヲ知リ入ヲ欺キ真金價直ヲ以テ行使セシトスルノ意アルヲ謂フ其事情ヲ酌量シテ處斷

スヘシ

第三百二十條 明治八年一月十七日指令同七

年十一月十四日磐前縣司

磐城國標葉郡幾世橋村小西松次郎楢葉郡井
 出村松本久次郎儀偽造寶貨律ニ照シ懲役三
 年ニ相伺候所七年第百七十六號十丁見合松次郎儀ハ改定
 律例第二百四十九條雜役ニ供スル者懲役十
 年久次郎儀ハ行使セサルニ依リ同七年卜御
 指令相成候然ルニ該犯ハ改定律例御頒布前
 ノ犯罪ニ付名例斷罪依新頒律條例ニ依リ原

律罪名輕キニ付懲役三年ニ相伺候ハ共偽造
 寶貨律ノ儀ハ更ニ御改正相成ル筋ニテ原律
 ニ依リ定擬スル者ニハ無之裁或ハ該犯二名
 ノ如キ匠人ヲ以テ論スルトキハ其情狀憫然
 ノ者ニ付事情御酌量有之律例四十九條雜役
 ニ供スル者ヲ以テ擬シ御指揮有之儀ニモ候
 裁了解仕兼候ニ付奉伺候也

指令

改定律例第二百四十九條偽造寶貨ノ匠人已
 ニ行使スル者

懲役終身

小西 松次郎

同上偽造寶貨ノ匠人未タ行使セサル者

同 十年

松本 久次郎

松次郎久次郎處斷ノ儀最初ハ伺面ノ通
雜役者ニ擬定候處右兩人ハ厚紙並轆轤
等ノ作具製造ノ者ニテ匠人ニ相當候ニ
付本議、如ク改正ス

○例第二百五十二條

第三百二十一條 明治九年四月二十日指令同
年三月七日度會縣伺

第一 改定律例第二百四十九條ニ寶貨偽造
ノ情ヲ知テ買取スル者ハ懲役終身未タ行使
セサル者ハ一等ヲ減ストアリ又同二百五十
二條ニ偽造タルヲ知テ買取シ未タ行使セ
サル者ハ已買使者ニ一等ヲ減ストアリ右ハ
重複ニ似タルモ同條ニ掲載スル所ハ情ヲ知
ルノ明文ナキヲ以テ偽造ヲ為スノ情ヲ知ラ
ズ唯偽貨ナルヲ知テ買取スル者ヲ指ス乎果
シテ然ラハ其已買使者ノ本罪分明ナラス疑
義ヲ生シ候

第二 前條ニ付警ヘハ甲ナル者實貨ヲ取受
 スルノ後偽造ニ係ルヲ知テ官ノ檢視ヲ請
 ハス^ナ躰^ナスルヲ乙ナル者之ヲ聞キ低價ニ買
 取シ未タ行使セス如斯ハ己ニ人ノ取受スル
 ノ後ニ在テ其偽造ハ何人ノ所為ナルヲ知ラ
 ス律例二百四十九條ニハ的當セサルヲ以テ
 同二百五十二條ニ依ル可キ乎

指令

第一 例第二百五十二條ハ唯偽貨タルヲ知
 テ買取シ人ヲ詐偽スル情状アル者ヲ云已

買使者ノ本罪ハ懲役終身ナリ故ニ懲役終
 身ヨリ減等スヘキ法ナレ氏情状ヲ酌ミ輕
 減スヘシ

第二 乙ナル者贖金ヲ低價ニ買取スルト雖
 モ人ヲ詐偽スル情ナキ者ハ例第二百四十
 九條第二百五十二條ニハ依リ難シ

○例第二百五十八條

第三百二十二條 明治九年四月二十日指令同
 年三月七日度會縣伺

第一條ニ云フ二百五十二條ハ二百四十九條

ノ重複ニテ己ニ行使スレハ懲役終身ニ處
 スルトセハ同二百五十八條ニ寶貨ヲ取受ス
 ルノ後始テ偽造ニ係ルヲ知リ官ノ檢視ヲ
 經スシテ行使スル者ハ不應為重ニ問フト是
 レ齊シク偽貨タルヲ知ルモノニシテ一ハ懲
 役終身ノ重キニ處セラレ一ハ僅ニ七十日ニ
 止ル勿論二百五十八條ハ真貨ナリト認メ取
 受スルノ後偽貨タルヲ知り其損失ヲ厭フテ
 行使スル者ニテ素ヨリ偽貨タルヲ知テ利ヲ
 圖ル者ト情法懸隔アリト雖モ苟モ偽貨タル

ト判然シタル後之ヲ行使スレハ其餘毒ヲ民
 間ニ流布スルニ至テハ同一般ニ可有之然ル
 ヲ如此罪ニ輕重アル所以ヲ考フルニ蓋シニ
 百五十二條ハ其偽造ノ原由ヲ知り己ニ偽貨
 ニ紛レナキヲ知テ買取スルモノニテ二百五
 十八條ハ取受スルノ後偽貨ナリト想像スル
 迄ニテ官ノ檢視ヲ經サレハ其真偽明了セサ
 ルヲ行使スル者ニ可有之裁條例ニ始メテ偽
 造ニ係ルトヲ知ルト有之ニ依リ甚夕疑惑ヲ
 生シ候

指令

第二百五十八條ハ損失ヲ厭ヒ官ノ檢視ヲ經サルマテニテ固ヨリ第二百五十二條ノ犯罪ノ如ク始メヨリ人ヲ詐偽スルノ情狀アル者ト異ナリ故ニ權衡懸絶セリ

○偽造私印

第三百二十三條 明治八年二月十八日指令同

年一月二十五日濱田縣伺

詐偽律ニ凡私印ヲ偽造スル者ハ杖一百財ヲ得ル者ハ賊ニ計ヘ各盜罪ヲ以テ重キニ從テ

論スト有之處既ニ金錢借取費用スル上ハ返辨ノ意アルノ蹤跡明カナリト雖モ盜賊ヲ以テ論スヘキ哉又ハ返辨ノ意有ル明カナレハ私印偽造ノミヲ以テ論シ盜賊ヲ以テハ論セサル儀ニ有之ヘク哉

指令

私印ヲ偽造シテ金錢ヲ借用スル者ハ偽造ノ罪懲役百日ヲ科シ負債金ハ民事ノ裁判ニ付シテ處分ス可シ
但シ情狀ニ依リ民事ノ裁判ニ付シ難キ者ア

ラハ口書ヲ以テ伺出可シ
犯姦律

○犯姦

第三百二十四條

明治八年一月十七日指令同
七年十月九日福島縣伺

日誌第九十七號妻妾人ト姦通シ本夫其姦夫
姦婦ヲ私和スル者不問ニ置キ其私和シテ財
ヲ取ル者追徴スルヲ勿レト又十號御省布達
ニ凡姦事他人ノ指称ニ係ル事ハ論スルヲ勿
レトアリ右ハ姦事ハ官ヨリ之ヲ探索^{タシ}發露^{ハツ}セ

シメ又ハ人ノ指稱ヲ以テ捕獲セシムル者ニ
非ルニ似タリ然レハ則官盜犯ノ見込ヲ以テ
捕獲スルニ該犯品物ヲ盜ミ取ル覺へ曾テ之
ナク唯某妻妾ト姦事アルト指稱ストモ素ヨ
リ指称サル、妻妾憑へキナシ該犯モ亦私怨
ヲ以テ指稱スルモ計リ難シ則姦情ハ曖昧ノ
事跡憑へキナクシテ誣執ニ失シ易シ之レニ
依テ犯姦ハ姦所又姦事ニ依リ闘毆ヲ生スル
カ俱ニ逃走等フシテ捕獲ニ就キ獄庭ニ於テ
犯情ヲ吐露スル者ニ非サレハ不問ニテ可然

哉

指令

姦事ニ因テ鬪毆ヲ生シ又ハ共ニ逃走ノ末捕
獲ニ就キ獄庭ニ於テ姦情ヲ吐露スト雖モ本
夫ヨリ告訴スルニ非レハ姦罪ヲ問ハス

第三百二十五條 明治八年四月十三日指令同

七年十月十八日三重縣伺

當縣管下伊勢國員辨郡宇野村農二ノ湯丈三
郎ナル者強姦ノ所業曩ニ罪案ヲ以テ擬律相
伺七年第百三十七号十三丁見合セ候後已ニ懲役十年ニ處ス

然ルニ姦セラル、ノ婦女陰門ニ傷クヲ以テ
醫藥ノ料及ヒ右一件落著マテノ入費ヲ被姦
者ノ父ヨリ本犯ヲシテ償ハシメント請フ此
ノ如キハ刑法上被姦者ノ損失下心得候ハ
適例無之且亦若シ償フヘキ筋ニテ本犯資力
ナキ片ハ如何可仕哉

指令

姦夫強姦ノ罪ニ處刑セラル、ノ以上ハ被姦
ノ女醫藥料等ノ入費アリト雖モ償ハスニ及
ハス

第三百二十六條

明治九年五月四日指令同年四月十日東京裁判所檢事局 伺

凡姦事他人ノ指稱ニ係ルハ論スルヲ勿レト
明治七年中本省布達有之候所就中親屬相姦
姦部民妻居喪犯姦ハ私和不問ニ置クノ限ニ
アラスト嘗テ滋賀縣伺へ御指令有之〔明治七
年司法省日誌第百六十四號ニ見ユ〕然ルトキ
ハ姦部民妻居喪犯姦等ノ罪犯ハ私和スト雖
モ發覺ノ上ハ糾治可然哉

指令

姦事他人ノ指稱ニ係ルハ論スルヲ勿レトハ
姦情曖昧確據ナク人ノ誣執ニ易キヲ防スル
所以ナリ親屬相姦居喪犯姦ノ類其現場ニ於
テ親屬捉獲シ及ヒ自ラ供認スル如キハ罪ヲ
科セサル可カラスト雖モ有夫ノ姦ハ夫ノ告
ルニ非サレハ論セス

○例第二百六十條

第三百二十七條

明治八年三月二十三日指令
同年二月十九日濱田縣伺

改定律例第二百六十條強姦スル者ハ懲役十年未タ成ラサル者ハ一等ヲ減ス因テ折傷スル者ハ懲役終身ト有之右因ノ一字ハ成否共ニ係リ候哉或ハ強姦成ル者ノニニ係リ候哉且ツ折傷以下ハ論セサル義ニ候哉

指令

因ノ一字ハ成否ヲ分ク折傷以下ハ常律ニ依ル

○親属相姦

第三百二十八條 明治九年一月二十二日指令

同八年五月和歌山縣伺

養父養女ト姦スル律ニ正條ナシト雖モ無論養子養母ト姦スル權衡ニ依リ各懲役三年ニ處シ可然哉

指令

父子姦ノ如キノ異常ノ犯罪豫メ律ニ示スヘキニ非ラス。犯者アラハ時々伺ノ上斷定ス可シ

○姦部民妻女

第三百二十九條 明治九年五月四日指令同年

四月十日東京裁判所檢事局

伺

官吏部民ノ妻ヲ姦スルノ律ハ地方官吏ニ止マル儀ト相心得可申裁又ハ判事檢事等其裁判区内モ亦部民ト為シテ論スヘキ哉果シテ然ラハ上等裁判所府縣裁判所區裁判所ハ各其所部ヲ限ル儀ニ可有之哉

指令

部民ノ妻ヲ姦スルノ律ハ地方官吏ニ限ル儀ト心得ヘシ

○例第二百六十一條

第三百三十條 明治八年一月九日指令同七年

十二月十三日愛知縣伺

尾張國春日井郡東志賀村農水野平左衛門供私儀七年八月十三日養子平四郎妻ハル俱ニ豆畑へ相越シ豆麥等摘取候初俄然艶情相勤キ傍ラ人ナキヲ幸ヒトハルヲ手元へ引寄セ直ニ手ヲ内股へ差入レ相挑^ト候處逃レ去ラントセシニ付其頸筋^{ネジ}ニ手ヲ掛ケ仰向ニ押倒シ候ヘハ聲立テ聽セサル故叱^ヒリ付ケ力ヲ

盡シ四肢ヲ壓制シ強テ姦淫相遂ケ歸宅致シ
候處其後平四郎儀強姦ノ事ヲ聞キ大ニ恥チ
差迫リ自殺セントシテ自ラ傷負ヒ候ニ付キ
直様治療相加ヘ候

指令

改定律例第二百六十一條子ノ婦ヲ強姦スル
者

懲役終身

水野 平左衛門

○改正居喪犯姦

第三百三十一條 明治九年五月十七日指令同

年四月十四日飾磨縣伺

改正居喪犯姦律曰父母舅姑ノ喪ニ居リ姦ヲ
犯ス者ハ凡姦ヲ以テ論シ夫ノ喪ニ居リ姦ヲ
犯ス者ハ有夫ヲ以テ論スト抑本條ニ凡姦ヲ
稱スル者譬ヘハ和姦夫アル者ハ各懲役一年
妾ハ一等ヲ減シ其他親屬相姦シ及ヒ家長若
クハ部民ノ妻ヲ姦シ及ヒ鷄姦スル者ノ類各
條ノ姦罪ヲ揚推スルノ辞ニシテ父母舅姑ノ
喪ニ居リ姦ヲ犯スト雖モ各々其本律ヲ以テ
科シ更ニ加等ノ例ヲ用ヒス尋常無夫和姦ノ

如キハ喪ニ之ヲ犯スモ猶ホ不問ニ置クヘシ
 ト考ヘ居候處明治六年本省日誌後第四十九
 號京都裁判所同改正居喪犯姦云々ノ御指令
 ニ改定律例ニ於テ凡姦ヲ以テ論スルトハ懲
 役一年ニ處スルヲ云フト有之果シテ御指令
 ノ如クナラハ則鷄姦ハ加二等妾姦ハ加一等
 父祖ノ妾伯叔叔姊妹及ヒ子孫ノ婦ヲ姦スル
 者ハ各減二等母ノ姉妹及ヒ兄弟ノ妻姪ノ妻
 ヲ姦スル者ノ各減二等其妾及ヒ家長若クハ
 部民ノ妻ヲ姦スル者並ニ減一等有夫ノ婦及

ヒ兄弟姉妹ノ女及ヒ前夫ノ女同母異父姉妹
 ヲ姦スルハ並ニ本罪加減ノ限ニ無之獨リ無
 夫ノ女ニ於ケルヤ超乘シテ輒ク懲役一年ノ
 重キニ入り相姦スル人モ亦同罪ニ至ル蓋シ
 無夫和姦ノ令ニ於ケル置テ問ハサル殆ント
 夫妻交通スルカ如シ曩^{サキ}キニ新例頒布ノ前ニ
 當リ仍ホ各杖七十而シテ喪ニ居テ犯スモ二
 等ヲ加ヘ杖九十ニ止ル大ニ令ト同シカラス
 其欲ヲ縱^{ホシ}ニシテ哀^{アイ}ヲ忘レ人情ニ近カラサル
 ヲ以テ爾ルトスル乎本來有罪ノ者之ヲ犯セ

ハ宜シク若干等ヲ加重セサルヘカラス然リ
而シテ一等二等ヲ加フル者アリ又減スル者
アリ加減セサル者アリ其權衡參差低昂宜キ
ヲ得サル歟甚々疑惑致シ候

指令

京都裁判所へ指令ハ處女及ヒ妾等懲役一年
ヨリ輕ク及ヒ不問ニ置クノ姦罪モ喪ニ居テ
犯ス者ハ懲役一年ニ處スルヲ云ノ義ナリ其
他親屬相姦等一年ヨリ重キ者ハ各姦罪ノ重
ニ依テ論ス

○例第二百六十七條

第三百三十二條 明治八年三月十日指令同年

二月福島縣伺

改定條例第二百六十七條ニ凡私娼ヲ街賣ス
ルモノクラシム窩主ヤドメシハ懲役四十日婦女及ヒ媒合容止
スル者云々トアリ夫レ私ハ公ニ對スルノ稱
ナレハ私娼ノ外別ニ公娼ナルモノアリテ問
フト不問トハ公私ノ分別ニ出ル者ノ如シ至
申年間解放ノ令下リシヨリ以來所所名稱ヲ
變シテ貸座敷藝妓等ノ鑑札ヲ授ケ鑑札ナキ

モノ為スヲ得サラシム其處置區戸長之ヲ任
 スル如シト雖モ其源或ハ官廳ニ由ル然ラハ
 則鑑札アルモノ之ヲ公娼トシ律ノ問ハサル
 處トシ鑑札ナキモノ乃チ之ヲ私娼トシテ本
 條ニ問ヒ可然哉或ハ鑑札ナクシテ貸座敷ヲ
 為シ鑑札アル藝妓ノ窩主タルモノハ本條ノ
 窩主ト情ヲ異ニスレハ更ニ違令或ハ違式等
 ノ輕重ニ問フヘキ儀ニ之レアルヘキ哉

指令

官廳ノ免許ヲ受ス賣淫スル者ハ例第二百六

十七條ニ依テ罪ヲ科ス本文或ハ鑑札ナクシ
 テ貸座敷ヲ為シ云々明瞭ヲ得難シ更ニ詳細
 ニ伺出ヘシ

第三百三十三條 明治八年十二月十九日指令

同年八月七日滋賀縣伺

司法省日誌昨七年第二十八號東京裁判所伺
 御指令ニ有夫ノ婦其夫ト商議ノ上賣淫スル
 者ハ縱容姦ヲ以テ論ストアリ然レハ其夫ニ
 告ケス密カニ賣淫セシ者モ亦有夫姦ヲ以テ
 論セサレハ權衡當ヲ得サルニ似タリ然ルニ

曩キニ當縣ヨリ有夫ノ婦其夫ニ告ケス密ニ
賣淫セシ者擬律伺候處々女ノ賣淫セシト同
シク衙賣私娼ヲ以テ御處断相成右ハ如何ノ
權衡有之儀ニ候哉

前條買淫セシ者ハ尋常縱容姦トハ異ナルニ
依リ假令有夫ノ婦タルヲ知テ買淫スルモ總
テ不問ニ置クヘキ哉

指令

第一 私娼ヲ衙賣スル者ハ有夫無夫ニ論ナ
ク改定律例第二百六十七條ニ依リ處分ス

欠

MISSING

捕縛處分スルト豫テ相心得居候處賭博就
捕者曰某ハ某席ニ於テ賭博シ某ハ曩ニ某々
ト幾負賭博ノ罪ヲ犯スト其者之レカ證人ト
ナリ探偵スルニ果シテ其言ノ如クナラハ幾
時日ヲ經ルト雖モ所謂見發ノ現行犯罪トナ
シ捕獲スヘキ歟又ハ既往ノ事ニ付追捕問罪
ニ及ハスミテ可ナラン乎ノ旨當縣ヨリ同年
十二月三日付ヲ以テ相伺候處司法警察規則
第三十二條非現行犯ヲ以テ處分スベシト御
指令七年第二百五有之孰レニ淮據スヘキ哉

指令

賭博ノ犯罪現行ニ非ル者ハ追捕問罪ニ及ハ
ス白川縣ヘ指令ノ通處分ス可シ

第三百三十六條

明治八年三月二十三日指令

同八年二月十三日愛知縣伺

爰ニ現行賭博ノ犯者アリ捕吏之レヲ偵知シ
己ニ捕縛ノ際犯者ヨリ私和ヲ求メシカ為メ
他ノ一人ヲ中間ニ交ヘ事情ヲ告知シ金ヲ以
テ捕吏ニ私和ヲ請フニ捕吏之ヲ聽許スルノ
後犯者海懼自首スル者アリ然ルルハ右中間

ニ交ルノ餘人ハ連累人ト做シ正犯ト同シク
首免ヲ與ヘ可然哉

指令

伺ノ通

第三百三十七條

明治八年三月二十八日指令

同八年三月十九日新治裁判

所伺

兩日博戯ヲ為ス者アリ前日ハ甲ノ街ニ於テ
之後日ハ乙ノ村ニ於テ各日黨類ヲ異ニス
然ルニ官吏乙村ノ賭場ニ於テ捕縛スル者糺

問ノ際前日甲街ノ黨類ヲ供吐スト雖モ現行
犯罪ニ非ラス既往ノ犯事ナルヲ以テ追捕問
罪ニ及ハサル乎果シテ然ラハ賭博ヲ犯シ人
ノ陳告ヲ知テ自首スルノ類一切不問ニ置ク
ハ論ヲ待タサル乎

但賭房ヲ開張シ骰子骨牌ヲ賣ル者モ既往
ニ係ルハ不問ニ置キ可然哉

指令

本文伺ノ通末段陳告自首シ既往ニ係ルハ亦
伺ノ通 但書骰子骨牌ヲ賣ル者ハ已往ニ係

ルト雖モ本律ニ科ス

第三百三十八條 明治八年四月五日指令同年

三月十四日京都裁判所伺

賭博者數名アリ捕吏ノ到ルヲ見テ逃走スル
ヲ追跡シ止タ其一名ヲ得タリ依テ其得ラル
、者ニ共犯ノ名ヲ問フ處誰某ト答フルニ依
リ其所在ヲ搜リ二日乃至三日ヲ過キテ捕獲
ス如此逃者モ其登時得ラル、モノト同シク
罪ヲ科スヘキヤ若シ然レハ其二年三年ヲ經
テ縛セラル、者又罪ヲ治スヘキ哉果シテ然

テハ若シ悔悟自首スト雖モ並ニ捕ニ臨ミ逃走スルニ依リ首免ヲ與フルノ限ニアラサル歟

指令

伺ノ通 但シ自首スルモノ聞捕自首ヲ以テ論スト雖モ真心悔悟ニ出ル者ハ仍ホ情狀ヲ酌量シテ減等スヘシ

第三百三十九條 明治八年四月七日指令同年

三月八日大分縣伺

從來弓術師範家ナル者辻的圖的等ノ名義ヲ

以テ多衆ヲ會同競射シ祖傳ト稱シ贏輸ヲ爭フニ錢ヲ賭ニスルアリ其實賭博ニ異ナラサルヲ以テ今日ニ至テハ右等ノ所業ハ難相成旨申付置候處猶ホ祖傳ヲ口籍トシ修行致シ度段願出ル向モ有之停止可仕見込ニハ候得共師傳有之儀ニ付為念一應相伺候也

指令

辻的圖的ト唱ヘ金錢ヲ賭シ競射スルカ如キハ固ヨリ賭博本律ニ問ハサルヲ得ス 但停止等ノ儀ハ其筋ニ可伺出事

第三百四十條 明治八年四月十五日指令同年

三月五日三潯縣伺

筑後國上妻郡大洲村商堀川瀧吉犯罪ノ儀ニ
付先般當縣元大屬塚田正富初二百人余一同
別紙一號口供ヲ以テ斷刑伺中尚又犯罪致候
ニ付別紙二號ノ通口供差出候處一號ハ御指
令有之刑名宣告前又々三號ノ通り犯罪候ニ
付テハ逃罪ヲ累加シ御指令ノ懲役九十日ニ
又一號ヲ加ヘ懲役百日ニ可申付儀カト存候
ヘトモ該犯ハ賭博再犯ノ者ニ付本罪懲役九

十日ニ逃罪一等ヲ加フレハ懲役百日又一等
ヲ累加スレハ懲役一年ト可相成筋ニハ無之哉
疑議ヲ生シ候間尚又書類之畧相添此段相伺候
也

指令

責付中再逃スト雖モ未タ論決ヲ經サレノ累
加スルニ及ハス賭博再犯ノ庶ハ調違ニ付責
付中逃走罪ト通シテ二等ヲ加ヘ懲役百日ニ
處斷スヘキ事

第三百四十一條 明治八年四月十八日指令同

年三月二十五日三潞縣伺
 人民ノ遊戯射的或ハ圍碁象碁等ニテ僅ニ五
 錢十錢ヲ賭シ候者賭博條ニ依リ懲役八十日
 申付候ハ餘リ苛酷ト存シラレ右ハ情法ヲ酌
 量シ減等ニテモ可致哉

指令

賭博ノ罪ヲ科シ酌量減等ハ裁判官ノ見込ニ
 マカス

第三百四十二條

明治八年四月三十日指令同
 年三月小田縣伺

賭博ノ罪犯ヲ一家共犯ノ例ニ依リ其罪ヲ免
 シタル者ハ犯數ニ計ヘサル儀ニ候哉

指令

伺ノ通

第三百四十三條

明治八年五月四日指令同年
 三月二十四日島根縣伺

御省日誌七年第二十七號白川縣ヨリ賭博シ
 儀ニ付伺御指令ニ賭博既往ノ犯事精密搜索
 ヲ遂クルニ及ハス止夕現行犯罪ノ者ニ限リ
 罪ヲ問フヘシト有之就テハ右ヲ援引可致處

現行ニ非ラサル犯者ニテ搜索上ヨリ捕ニ就
キ已ニ断决方今服役中ノ者モ有之候處右等
ハ都テ改正放免シ可然哉

指令

既ニ断决ヲ経役中ニ在ル者ハ其儘差置ク可
シ

第三百四十四條

明治八年十二月九日指令同
年五月三日秋田縣伺

第一 明治五年五月十四日以後ニ係ル華士
族賭博犯罪ハ閔刑ニ處スヘキ處當時御布告

無之ヲ以テ改定律例御頒行マテ舊律ニ照断

シ来リ候ニ付今其族禄ヲ復スルニ當リ本人

已ニ死去スル者ハ其相續人へ族禄ヲ復スヘ

キ哉

第二 同上犯時卒籍ニ係ルハ壬申第二十九

號御布告ニ傍照シ一世卒ハ唯其禄ヲ復シ世

襲卒ハ復禄ノ上更ニ士族ニ編シ可然哉

第三 同上本人一世卒已ニ死スルハ其相續

人へ一世卒ハ給禄没収ノ日ヨリ死太ノ日マ

テノ禄ヲ給シ世襲卒ハ前條ノ處分致シ可然

哉

指令

第三條共同ノ通

第三百四十五條

明治八年十二月九日指令同

年五月七日熊谷縣伺

博徒ノ良民ヲ害シ候儀各地方一般ノ深患ニ
候得共就中關東地方上州邊ノ如キ尤モ甚敷
場所ニテ此際取締向ニ於テハ根源ヲ塞キ枝
葉ヲ懲シ候事ニ不致以上隨テ掃ヘ凡隨テ來
リ隱見出没警察主任ノ者モ之ヲ如何トモス

ル能ハサルノ勢ニ可相成然ルニ右犯人捕縛
方ノ儀ニ付御省日誌昨七年第二十七號白川
縣第二百五號和歌山縣并ニ本年第五十號新
沼裁判所伺ノ御指令ニ現行犯罪ノニ捕縛罪
ヲ問ヒ候テ現在賭場ニ於テ捕縛スルノ外巨
魁并ニ黨類判然タリ凡踪跡ヲ追躡シ或ハ探
索捕縛ノ手配等ニハ不及旨ニ被相伺右ハ賭
博犯罪必ス黨類多人數ニ付之ヲ探偵上ニテ
捕獲セントスルキハ連株蔓延勝テ捕獲ス可
カラサルニ至ルヲ以テ捕獲ハ姑ク現行犯人

ノミニ止ル旨ニ候哉又ハ其事柄一時ノ賭物
輸贏ヲ競候迄ニテ為差惡心ニ相發候程ニモ
無之故ヲ以テ全ク御寬貸ニ被措候儀ニ候哉
差向警察官吏共配置ノ際右犯人取扱振心得
方ニモ差支リ候間前三縣へ御指令ノ旨趣尚
又詳細御指示ヲ蒙リ度此段相伺候也

指令

賭博罪必ス現行犯ヲ要スルハ指攀誣陷ノ弊
ヲ防クニ在リ其巨犴大猾巧ニ規避シテ人ヲ
誑誘スル等ノ如キ其憑據確實ナルモノハ捕

縛審糾シ其情狀ニ隨ヒ別ニ罪ヲ問フヘシ

第三百四十六條

明治八年十二月十七日指令

同年五月十七日福岡縣伺

木牌竹札ヲ以テ假リニ金錢ノ代トシテ博戲
ヲナスアリ右等ハ財物ヲ賭スル者ニ非サレ
ハ全ク一時ノ戲ニ屬シ現場ヲ賭スル者ト同
視シ難カルヘク然レモ右取り遣リノ竹牌ハ
後ニ轉シテ金錢ノ取引ト可相成ハ必然ノ儀
ニ付之ヲ不問ニ置クトキハ賭博ノ儀ハ於是
廢弛シ破産傾家ノモノ多ク相成ルヘク就テ

ハ右様戯ヲナフモノ金錢受授不致前ニ差押
ルニ於テハ本律ヲ以テ論セス違令或ハ違式
ノ輕重ニ問ヒ如何可有之哉

指令

一時木牌竹札ヲ以テ金札ノ代リトナシ博戯
ヲナスト雖モ初ヨリ財物ヲ受授スル約言ア
ルモノハ本律ニ依リ酌量シテ斜斷スヘシ

第三百四十七條

明治九年一月九日指令同八

年十月九日小田縣伺

賭博ハ現場捕獲ノモノヲ坐スルヲ律ノ適旨

ト相見ヘ候然ルニ再犯ノ片初犯ヲ押包ミ初
犯ヲ以テ受決ヲ經三犯ノ節發露スル者ノ如
キモ其藏匿不實ノ罪ハ更ニ通算加役スルニ
不及哉

指令

藏匿不實ノ罪ハ更ニ論スルニ及ハス

第三百四十八條

明治九年五月四日指令同年

三月二十九日磐井縣伺

本年御省日誌第十一號大分縣ヨリ賭博非現
行ハ不問ニ置ク所以ト賭博律ノ設ケアル所

以トヲ伺出タル御指令ニ賭博罪云々其巨狂
 大猾巧ミニ規避シテ人ヲ誑誘スル等ノ如キ
 其憑據確實ナルモノハ捕縛審糺シテ其情狀
 ニ隨ヒ別ニ罪ヲ問フトアリ其情狀トハ何等
 ヲ指稱セラレタルヤ夫レ賭博ハ骰子ヲ振出
 シテ其數ノ的射シ骨牌ヲ投シテ其符ヲ照合
 スルノ狀ニシテ金錢物品ノ輸贏ヲ争フ情ノ
 外ナラス是即チ本律ニ適スルモノニシテ別
 ニ罪ヲ問フヘキ情狀ナシ故ニ巨狂大猾巧ニ
 規避シテ人ヲ誑誘スルトアルヲ以テ之ヲ罪

ニ問フヘキ筋ナルヘシト雖モ罪犯ノ規避ス
 ルハ其常情ニシテ亦人ヲ誑誘スルモ被誘者
 應セサレハ儼場ヲ設クルニ由ナシ然レハ規
 避スルト誑誘スルトヲ以テ罪ニ問フヘキ理
 アルヘカラス依テ右情狀ニ隨ヒ別ニ罪ヲ問
 フトアリ御指令ノ趣意詳細御垂示被下度候

指令

情狀ニ隨ヒ別ニ罪ヲ問フトハ人ヲ懲懣シテ
 賭場ヲ開カシメ人ノ輸贏ヲ以テ己ノ損益ヲ
 圖リ或ハ錢ヲ借シテ息ヲ収ムル等狡猾ニシ

テ規避ニ易キ者此等ハ現行犯ニ非スト雖モ其情狀ニ因テハ罪ヲ問ハサルヲ得サルノ類ト心得ヘシ

第三百四十九條

明治九年五月十七日指令同年四月二十七日飾磨縣伺

賭博現行犯ニ非ラサルヨリハ追捕問罪ニ及ハサル旨屢本省日誌中ニ散見セリ然ルニ爰ニ一人アリ時トシテ博徒ヲ會シ贏輸ヲ為ス而シテ目ヲ近傍ニ注シ捕吏若クハ他ノ動靜ヲ視察シ戶外ニ履聲アレハ輒チ己ハ捕吏ト

雖モ其實際ヲ認ムルヲ得ルナシ該區戸長之ヲ憂ヒ或ハ入ヲ令シテ曰彼レハ常ニ斯クノ如シ然レモ巧ニ規避ニテ現場ヲ見ルニ及ハス捕吏ノ權アル者ニシテ苟モ其邊ニ徘徊セハ忽チ彼レニ偵知セラル幸ニ其事ニ與ラサルヲ以テ潛行其所為ヲ訴告スヘシト或人至ル果シテ區戸長ノ言ノ如ク履聲ヲ聞キ博具ヲ収メ敢テ博戯ヲ為サ、ル者ノ如シ或人就テ鞫問シ其實ヲ得走テ區戸長ニ報シ遞告シテ警察吏ニ至ル仍テ翌日ニ至リ之ヲ喚問ス

ルニ彼レ悉ク其罪ニ服ス右ハ或入ノ訴告ニ
 發スト雖モ元米區戸長ノ令ニ出ルヲ以テ現
 時捕獲ノ者ト同視シ本律ニ依テ處断可致裁
 指令
 區戸長ノ使令ニ依リ現場ニ就テ鞫問シ其實
 ヲ得ル者ハ現行犯罪ト見做シ處断スヘシ

○例第二百七十一條

第三百五十條 明治八年十一月五日指令同年

十月十八日千葉縣伺

新律綱領改定律例ニ賭博ノ文字ト博戯ノ文

字トハ差別有之儀ト存候就テハ改定律例第
 二百七十一條ニ凡博戯ニ用ユル骰子骨牌ヲ
 賣ル者ハ賭博者ト同罪云々ト有之右ハ財物
 ヲ賭スルト賭セサルトニ拘ラス總テ博戯ニ
 用ユル骰子等ヲ賣ル者ハ財物ヲ賭シテ博戯
 スル者ト同罪ニ處セラル、儀ニモ可有之哉
 果シテ然ラハ少年輩ノ雙六ニ用ユル骰子花
 合ニ用ユル骨牌ヲ賣ル者モ罪ヲ問フルキ筋
 ニ可有之哉警察上疑義ヲ生シ候ニ付此段相
 伺候也

指令

賭博ト博戯トハ差別ナキ者ナリ故ニ本律財物ヲ賭シ博戯ヲ為ス者ト謂フ止夕火兎輩遊戯ニ用フル骰子骨牌ヲ賣ル者罪ノ問フヘキナシ

○失火

第三百五十一條 明治八年二月十五日指令同年一月十三日京都裁判所同居ノ雇入家長ノ人家遠隔ノ地ニ所持セシ一時作番小屋ニテ失火シ其小屋ニ常居スル

ニ非ラス又延焼ノ害ナキハ家長ノ宅ヲ焼クト區別有之候哉

同上各居ノ雇人ニ係レハ是亦區別アリ哉

指令

同居ノ雇人失火シテ家長ノ宅舎ヲ焼ク者ハ自己ノ宅舎ヲ焼クト同ク論シ各居ノ雇人ハ一等ヲ加ルノ所人家遠隔ノ地ニアル一時ノ作番小屋ノ如キハ宅舎ト同シク論シ難シ依テ一等ヲ減シ懲役十日各居ノ雇人ハ自己ノ宅舎ヲ焼クト同シク論シ懲役二十日ニ處ス

第三百五十二條 明治八年三月十四日指令同
年二月鳥取縣伺

火ヲ失シ學校建設ノ為メ獻納スル金ヲ以テ
建築スル中小學校ヲ燒キ或ハ延燒スルハ如
何處分可致哉

指令

公廨ヲ燒ク者ヲ以テ論シ延燒スル者ハ三等
ヲ減ス

第三百五十三條 明治八年三月十四日指令同
年二月二十日筑摩縣伺

人民協立ノ學校ヲ交番看守スルニ際シ火ヲ
失シテ燒亡スル者ハ一時雇人ヲ受クル看守
人ト同シク人ノ宅舎ヲ燒ク者ニ一等ヲ加ヘ
可然哉

指令

人ノ宅舎ニ延燒スルヲ以テ論ス

第三百五十四條 明治八年三月十五日指令同
年二月鳥取縣伺

甲乙丙協力ノ醵金ヲ以テ一字ノ醫院ヲ建設
シ醫ヲシテ居ラシムルニ其醫火ヲ失シ該院

ヲ燒クモノハ自己ノ宅者ヲ燒ク者ニ一等ヲ加ヘ可然哉 但甲或ハ乙丙火ヲ失シ該院ヲ燒クモノ本條ト同シク自己ノ宅舎ヲ燒クニ一等ヲ加ヘ可然哉

指令

本條但書共同ノ通

第三百五十五條

明治八年三月十四日指令同

年二月十四日鳥取縣伺

二男或ハ三男ヲ分家セシメ戸主トナシ居ラシムルニ其本家ノ父母火ヲ失シテ該家ヲ燒

クモノハ人ノ宅舎ヲ燒ク者ヲ以テ論シ可然哉

指令

自己ノ宅舎ヲ燒ク者ヲ以テ論ス

第三百五十六條

明治八年三月二十八日指令

同年三月若松縣伺

辻堂或ハ作小屋等ノ空屋ニ三四人集リ共ニ申合セ焚火致シ一同起テ各所ニ行ク跡ニテ失火其家燒亡スルアリ右ハ當初焚火セント發意セシ者又消滅ヲ肯セシ者ナシ畢竟火ヲ

失スルハ一同ノ疎忽ニ出ルト雖モ各自ニ罪ヲ科スルハ聊カ酷ニ過クルニ似タリ又不問ニ置クハ輕ニ過クル様被存候如何相心得可然哉

指令

各自ニ罪ヲ科ス

第三百五十七條

明治八年四月二十九日指令

同年三月二十八日廣島縣伺

各居親屬或ハ他人一時止宿ノ者火ヲ失シテ其家ヲ燒ク者處分方御省日誌昨年第九十六

號置賜縣伺第二項ニ明文アリト雖モ其人ノ宅舎ニ延燒スルノ義不相見如何處分可然哉

指令

人ノ宅舎ニ延燒スル者ト同ク罪ヲ論ス

第三百五十八條

明治九年四月二十日指令同

年三月十三日飾摩縣伺

本省日誌明治七年第九十五號兵庫裁判所伺第三條失火ノ節水手乏シキ所ハ近接ノ家屋ヲ破却毀損シ他ニ延燒ノ道ヲ斷テ云々ノ御指令ニ燒亡セサルモ破却シ訖レハ延燒ヲ以

テ論スヘシト有之八年四月八日水澤縣伺第
 二條火ヲ失シテ自己ノ宅舎ヲ燒キ未タ他ニ
 延燒セスト雖モ消防ノ爲メ近隣兩三家ヲ破
 毀スル者云々ニハ延燒スルヲ以テ論スル限
 ニアラスト同年五月二十八日御指令有之由
 右ハ破却シ訖レハ延燒ヲ以テ論シ一應ノ破
 毀ニ係ルハ其限ニ非ラスト心得可然哉百三
 號御布告ノ末援引スヘキニ非スト雖モ律意
 如何哉難得了解此段相伺候也

指令

破却シ訖ルモ延燒ヲ以テ論スル限ニアラス
 第三百五十九條 明治九年四月二十日指令同

年三月十五日磐井縣伺

綱領失火條火ヲ失シテ自己ノ宅舎ヲ燒ク者
 ハ筈二十トアルハ其失火者ノ過誤ヲ責ムル
 論ヲ俟タス人ノ宅舎ニ延燒スル者ハ筈四十
 トアルハ人ニ損害ヲ蒙ムラシメタルヲ以テ
 自己ノ宅舎ヲ燒クニ二等ヲ加フルノ律意ナ
 ラシ其權衡ニ依レハ若シ太廟以下公廨等ニ
 於テ火ヲ失シ人ノ宅舎ニ延燒スル者並ニ本

罪ニ二等ヲ加ヘ可然哉 但人ノ宅舎ニ延焼
スル者ハ自己ノ宅舎ヲ焼クニ二等ヲ加フル
ノ律意ニ非ラサルトキハ無論ニ罪俱發例ニ
依ルト相心得可然哉

指令

人ノ宅舎ニ延焼スル者ハ自己ノ宅舎ヲ焼ク
ニ加等スト雖モ太廟以下公廨等ニ於テ火ヲ
失シテ延焼スル者ハ加等セス

第三百六十條

明治九年四月二十七日指令同
年三月十九日飾摩縣伺

別居異産ノ子偶父ノ家ニ来リ火ヲ失シテ父
ノ宅舎ヲ焼ク者アルトキハ自己ノ宅舎ヲ焼
ク者ト同シク科斷致シ可然哉又ハ自己ノ宅
舎ヲ焼ク者ヲ以テ論シ一等ヲ加ヘ候哉

指令

自己ノ宅舎ヲ焼クニ一等ヲ加フ

第三百六十一條

明治七年四月指令同年二月
二十八日京都裁判所伺

日誌第七十二號火ヲ失シ宅舎ノ屋上ニ溜焼
セス舎内ニテ消留候者云々開拓使ヨリ問合

ノ御回答ニ火ヲ失シ燒燬ニ至ラサル者ハ無
罪ト有之右ハ自己ノ宅舎ヲ燒ク者ニ有之候
處人ノ宅舎ヲ燒キ燒燬ニ至ラサルハ本罪ニ
一等ヲ減スルカ將タ亦無罪ニテ可然哉

指令

燒燬ニ至ラサルハ懲役二十日贖ヲ聽ス

○放火

第三百六十二條

明治八年三月二十五日指令

同七年四月二十八日廣嶋縣

伺

備後國三次郡西酒屋村雜業繁藏弟重丸京平
供 兄繁藏ハ同村源光寺ノ下男ト爲リ其跡
ハ母ト自分ト兩人暮シ極貧ノ上母ハ黃痰病
ニテ難澁シ不得已近隣懇意ノ者等へ合力ヲ
乞ヒ母ヲ育シ稍ク其日ヲ過ス所母ノ病ハ芭
蕉根ト蜆貝ヲ味噌汁ニテ食スレハ平愈スル
由承リ何卒全快致サセ度七年三月五日蜆貝
ヲ拾ヒ芭蕉根ヲ貰ヒ受ルト雖モ味噌ヲ買フ
ヘキ代價ナク殆ント困惑ノ餘リ金居久左衛
門ハ味噌澤山貯ヒ有之由ニ付貰ヒ受ント欲

シ同家へ罷越シ其妻ニ前書ノ始末相話シ味噌火々ノ惠與ヲ懇請スル所味噌ノ貯蓄ハ無之逆惠ニ呉レス全体當家ハ兼テヨリ些少ノ漬物等ヲ乞フ所無慈悲吝嗇ニシテ快然投與セサル家風ナルハ熟知スト雖モ此度ハ母ノ病氣ノ事故如何ニモシテ聊カ貫ヒ受ント欲シ尚ホ折入テ乞フ所一切憐ニ呉レス手堅ク斷ハラレ不得已残念ナカラ空敷立歸リ熟考スルニ與フル汁ノ出来サルモ全ク渠レ無慈悲ノ為ス所ト遺憾ニ堪ヘ難ク同人ノ居宅ヲ

焼拂ヒ怨恨ヲ散セント覺悟シ其夜其居宅裏木屋ニ忍ヒ入り柴木類へ用意ノ火ヲ吹付立歸シ所忽チ燃揚リ居宅一圓ニ焼失ス當時自分ハ十五年四月ニ相成候

指令

該家貧困ニシテ朝夕ヲ支フル一能ハス曾テ久左ノ家ニ就テ物ヲ乞フニ吝ンデ與ヘス今又母ノ病ノ為ニ僅カノ味噌ヲ乞フニ肯ンセサルヨリ其不仁ヲ憤リ療養ヲ遂ケサルヲ怨ミ一時ノ情ニ迫リ火ヲ放テ其家ヲ焼ク者

放火條火ヲ放テ故サラニ民舎ヲ燒ク者本罪
斬ノ處其情狀ヲ酌量シ二等ノ減シ

懲役十年

重丸 京平

第三百六十三條

明治九年四月二十六日指令

同年三月八日茨城裁判所伺

放火自首ノ儀ニ付相伺候處放火ノ罪ハ人民
公益ヲ害スル極メテ大ニシテ尋常賊盜ノ比
ニアラス即チ自首ヲ聽サ、ル所以ナリト御
指令之アリ左候得ハ其燒燬ノ物ニ於テ賠償
ヲ得ル得サルニ關セス其兇暴ヲ惡ニ首免ヲ

聽カ、ル儀ト存候然ルニ律例自首條其人ヲ
損傷シ及ヒ賠償ス可カラサルノ物ヲ毀棄シ
若クハ姦スル者ハ並ニ自首ノ律ニアラスト
之レ有リ放火自首ヲ聽カ、ルノ明文相見ハ
ス其律意ヲ推究スルニ總テ賠償スルヲ得
可カラサルモノニ限り首免ヲ與ヘサル様子
解致サレ候特リ放火ノミ賠償スルヲ得ルモ
公益ヲ害スル大ナルヲ以テ自首ヲ聽サ、ル
儀ニ候ハハ全ク自首律例外特別ノ御趣意ノ
様了解致サレ益疑團ヲ生シ候間放火首免與

ハサレハ律例何レノ條款ニ准據致シ候トノ儀精細ニ御指諭被下度此段猶相伺候也

指令

公益ヲ害スルトハ衆庶ノ安寧ヲ妨害スル儀ニシテ賠償ノ道アルチニ故ニ前指令ノ通心得ヘシ

續擬律必携卷八終

版權免許 明治十年三月三十一日

板主

長野縣士族

正木

誓

東京第三大區三小區上六番町三十二番地

發兌

東京第一大區六小區日本橋寺丁目十五番地

書肆

北田茂兵衛

編輯人 茨城縣茨城横山成教 岐阜縣平民渡邊義雄 茨城縣茨城佐久間市清
住所 東京第三大區四小區飯田町四丁目四番地 東京第四大區二小區小川町根岸町五番地 東京第六大區八小區南本町五丁目四十番地

1
11
49

1
49

